



令和5年度 富岡市景観まちづくり講演会 ～里山景観は、誰のもの？二拠点生活の視点で地域の景観を考える～

富岡市 建設水道部 都市計画課

富岡市では、景観形成の推進と市民景観意識の向上を目的として、平成21年度より「富岡市景観まちづくり講演会」を開催しています。今年度は、群馬県・群馬県都市計画協会と共催で、令和6年2月3日(土)に富岡製糸場 国宝「西置繭所」で実施し、学生・一般の方から行政関係者まで、約110名にご参加いただきました。今回は、「市民主導」をキーワードに、市民レベルで景観まちづくりに取り組んでいる方々に焦点を当てました。

■ 講演会の講和内容

「里山景観は、誰のもの？～二拠点生活の視点で地域の景観を考える～」と題し、NPO法人南房総リパブリック代表理事の馬場未織(ばば みおり)さんにご講演いただきました。馬場さんは、建築ライターとしてご活躍のかたわら、素晴らしい田舎の里山景観に惹かれ、2007年より、週末は都内から千葉県南房総市へ移動している二拠点居住の先駆者です。里山学校や古民家改修エコリノベなど、里山景観の維持保全のために市民主導で、みんなで楽しみながら取り組んだ事例をご紹介いただきました。地域と深く関わることで地域に対する愛着が生まれ、愛着を持つ人々の協働により、その地域の景観が維持されているそうです。光も影も含め景観を「中」から見るのが、新しい景観の汲み取り方であり、つくり方であるとのお話をいただき、聴講者の共感と感心を集めていました。



馬場 未織さん

■ 市民連携でつくる講演会

毎年、富岡市の景観まちづくり講演会は市民、事業者を巻き込み、協働・連携して楽しみながら企画しています。今回は、会場に合った装花を富岡実業高校の生徒さん方がご担当されました。また、あさや呉服店さんのご協力により、講師には富岡製糸場のイメージに合う袴姿でご登壇いただきました。そして、同時開催の景観賞表彰式の記念品を、木工教室を営むnorimokuさんに制作していただきました。記念品は、受賞者である東富岡地区地域づくり協議会のかかし祭りから着想を得た、オリジナルのかかしトロフィーです。休憩時には、スターバックスコーヒー富岡店さんから南房総をイメージしたコーヒーのご提供があり、華やかで和やかな雰囲気の講演会となりました。



講演会の様子



景観賞記念品トロフィー

■ 景観行政としての想い

今回の講演会では、市民主導による地域活動を通し、心の豊かさを得ていく過程の副産物として景観保全が生まれている事例をご紹介いただきました。資金を多く投入する景観保全活動との比較は難しいですが、景観まちづくりにとって重要なのは、一過性のイベントではなく、継続することだと考えます。人口減少が進む地方都市にとって、地域の「中」に入り、長く地道な活動をする人を増やすこと=人づくりが、景観まちづくりの肝になると感じました。

